



# 芦屋市阪神・淡路大震災 20 周年事業

## まちづくりの振り返り報告書

阪神・淡路大震災から 20 年を迎えた  
芦屋市のこれからの課題

平成 27 年 3 月  
芦 屋 市



# 目 次

## 阪神・淡路大震災から 20 年を迎えた芦屋市のこれからの課題

1	目 的	1
2	今回の取組までの経緯	1
	(1) 芦屋市震災復興計画が目指した芦屋市の姿	1
	(2) 震災復興 10 年 芦屋市まち・人・くらしの総括・検証	1
3	震災 20 周年事業におけるまちづくりの振返りの取組	2
	(1) 「復興計画の整理」のフォローアップ <b>報告 1</b>	2
	(2) 統計でみる芦屋市の現況 <b>報告 2</b>	3
	(3) 防災についての市民アンケート結果 <b>報告 3</b>	3
4	今回の取組で明らかになった課題	4
	図：今回の取組で明らかになった課題	5

**報告 1** 震災から 10 年後に行った「芦屋市震災復興計画の基本計画の項目ごとにできたこと・できなかったことの整理」のフォローアップ

**報告 2** 統計で見る芦屋市の現況

**報告 3** 防災についての市民アンケート結果

**付属資料** 芦屋市阪神・淡路大震災 20 周年事業の取組



# 阪神・淡路大震災から 20 年を迎えた芦屋市のこれからの課題

## 1 目 的

阪神・淡路大震災から 20 年を迎えるにあたり、「震災復興 10 年 芦屋市まち・人・くらしの総括・検証」以降のまちづくりに関する取組について振り返り、現在の芦屋市の課題を明らかにして、今後の市政の参考とする。

## 2 今回の取組までの経緯

### (1) 芦屋市震災復興計画が目指した芦屋市の姿

本市は阪神・淡路大震災による壊滅的な被害から復旧・復興するにあたり「芦屋市震災復興計画」を策定した。その際には、防災・減災体制の拡充、ライフラインなどの都市基盤の強化、救援・救護体制の充実にとどまらず、生涯学習、社会福祉活動などの多様なコミュニティ活動を支援し、心豊かな地域社会の形成を図っていくことを目指した。

さらに、文化、景観において芦屋市の独自性を追求し、快適で安心して暮らし、働き、憩えるまちづくりのために、市民、事業者及び行政が協働して取り組んでいくこととした。

平成 7 年 7 月に策定したこの計画は、未曾有の災害を乗り越え、芦屋のまちの再生・創出を図るため、そのまちづくりの方向を示し、基本的施策を明らかにするものであった。

### (2) 震災復興 10 年 芦屋市まち・人・くらしの総括・検証

震災復興計画の終了年次に向け、本市は総括・検証に着手し、「芦屋市震災復興計画の基本計画の項目ごとにできたこと・できなかったことの整理（以降「復興計画の整理」とする。）」を行った。また、全体を俯瞰する角度からさらなる検証を行うために平成 16 年 5 月に「芦屋市まち・人・くらし活性化推進懇話会（以降は「懇話会」とする。）」を設置して、懇話会の意見や市民意識調査、市民ワークショップ、各種代表との懇談会で寄せられた意見を加え、全市的・横断的な総括を行い、これからの芦屋市のまち・人・くらしの活性化に向けた取組への方向性を整理して「震災復興 10 年 まち・人・くらし総括・検証報告書」を作成した。

この報告書において、残された課題についてどのように取り組み、本市のさらなる発展につなげていくのかについて、懇話会から以下の 3 分野において提言がなされた。

- 安全で活気にあふれた「まち」
- 安心でやさしさにつつまれた「くらし」
- 「人」を結び、支えあうシステムの再構築

### 3 震災 20 周年事業におけるまちづくりの振返りの取組

平成 17 年（2005 年）2 月の懇話会からの提言は、震災から 10 年しか経っていない当時、既に「人々の危機意識は震災直後より低下しており、整備された防災施設に人々の防災意識が注ぎ込まれていない」との現状分析の上になされた。

提言から 10 年を経て震災から 20 年目を迎える平成 26 年度（2014 年度）において、震災復興計画が目指した芦屋市の姿、また懇話会の提言としてあらわされた芦屋が、形だけのものだけでなく「意識の注ぎ込まれたもの」になっているのかを再確認し、あらためてこれからのまちづくりに反映していくこととした。

#### (1) 「復興計画の整理」のフォローアップ **報告 1**

「芦屋市震災復興計画」の目標年次である平成 17 年（2005 年）を迎えるに際し、平成 16 年（2004 年）に「芦屋市震災復興計画の基本計画の項目ごとにできたこと・できなかったことの整理」を行い、併せて復興の過程で発生した問題、現在の課題を抽出し、これから取り組むべきことを明らかにしている。

今回の取組では、まちづくりの振返りとして、この「復興計画の整理」のフォローアップを手法として採用した。

#### ア 震災から 10 年の「復興計画の整理」で行ったこと

平成 16 年（2004 年）に行った「復興計画の整理」では、基本計画に掲載されている具体的施策の項目ごとに下記の 4 つに分類し、課題を提示している。

- ② 実施してきたこと
- ③ 実施してきたことの今後の継続的な取組・拡大・充実
- ④ 実施してきたことの中で発生した問題
- ⑤ 計画に掲載されているができていないこと及び現在の課題

上記②から⑤に分類した各課題は、これからの芦屋市のまち・人・くらしの活性化に向けて、1 つの項目に対し複数の課題提示を行っている。目標には達しているものの、今後の継続・発展のために必要な課題であり、懇話会による提言につながった内容となっている。

「芦屋市震災復興計画」は一から再構築するためにハード、ソフトの両面で多分野に渡る内容で作られているが、これに対し「復興計画の整理」では、ハード面が概ね整ってきた状況において、ソフト面での充実を図るため、個別具体的な課題提示がなされている。その後の第 3 次及び第 4 次総合計画を始め、芦屋市の中長期計画には、これらの課題提示が反映され、経常事業で実施されている。

## イ 今回のフォローアップ

今回は、前ページの②から⑤に分類した各課題の現況について、下記の3区分に分類した。

- A 達成済
- B 経常事業または他の計画で継続
- C 未実施または要見直し

今回対象とする課題数 341 項目のうち、「A 達成済」が 73 項目、「B 経常事業または他の計画で継続」が 235 項目、「C 未実施または要見直し」が 33 項目であった。

「C 未実施または見直し」の項目は、他の事業との優先順位の中で実施時期が見直されているもの、社会情勢の変化などにより既にニーズがないものが大半である。

既に実施しているものであっても、多くの項目については、継続事業の中で今後も引き続き充実していくべき内容であった。

### (2) 統計でみる芦屋市の現況 **報告 2**

平成 17 年度（2005 年度）の総括・検証報告書においては、多くの分野にわたる統計を分析し、震災発生と復興の影響について検証を行っている。

しかし、今回は復興計画で目指した芦屋市の姿を、今後の施策に反映させていくための取組であるため、人口推移、住宅の推移、市・県民税課税状況から見る市民の経済状況、市内産業の推移、芦屋市の行財政状況の 5 つの観点から、既存の統計資料を基に、震災前、震災から 10 年目、現在の 3 時点での比較を行った。

### (3) 防災についての市民アンケート結果 **報告 3**

平成 26 年（2014 年）11 月に、震災の記憶や経験・教訓の継承と災害に強いまちづくりを推進するために、今後の安全・安心のまちづくりの基礎資料として防災についての市民アンケートを行なった。

復興計画の防災の項目については「芦屋市地域防災計画・芦屋市水防計画」に反映されており、その他の計画においても「安全・安心」の観点からの項目が盛り込まれている。

しかし、今回は「市民から見て、本当に目指してきた姿に近づいているのか」を確認するため、防災についてのアンケートとしつつも、その結果から見えてくる防災のみに包括されない施策の必要性についても把握できるものとなった。

特に、結果によって提示される課題については、市行政の各担当において大切に受け止め、さらに掘り下げることで今後の施策につなげていくことになる。その際には、**報告 1**における過去からの経緯や**報告 2**における現状分析を踏まえることによって、他の施策とも有機的につなげていく必要がある。

## 4 今回の取組で明らかになった課題

今回の取組により、「震災復興 10 年 芦屋市まち・人・くらしの総括・検証」以降、提言の趣旨を踏まえて課題に取り組んできていることを確認できたが、一方で取り組んできたにもかかわらず、未だ大きな成果の見られない課題も残っている。

次ページの図に表示する今回の取組によって明らかになった課題は、すでに 10 年前の総括・検証の際に明らかになっていながら、抜本的な改善がされていないものもある。

しかし、この 10 年間の取組の実績により状況も変化してきており、さらに工夫した取組を行うことで、目に見える成果につなげていく必要がある。



図：今回の取組で明らかになった課題

